

公益社団法人 日本技術士会
千葉県支部 平成 30 年度 年次大会
活 動 報 告 書

平成 29 年度活動報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

平成 30 年度活動計画

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

開催日:平成 30 年 7 月 16 日(月、海の日)

会 場:ホテルプラザ菜の花 3階「菜の花」

千葉市中央区長洲 1-8-1

公益社団法人 日本技術士会 千葉県支部

千葉県支部 平成30年度 年次大会 活動報告書

目次

I. 支部長挨拶

II. 平成29年度活動報告・平成30年度活動計画

1. 千葉県支部活動報告・活動方針
2. 委員会・チーム活動報告・活動計画
 - ①総務委員会
 - ②企画委員会
 - ③広報委員会
 - ④活動推進委員会
 - ⑤産学官連携チーム
 - ⑥企業支援チーム
 - ⑦技術相談チーム
 - ⑧防災支援チーム
 - ⑨科学技術・理科支援チーム
 - ⑩技術者教育支援チーム

III. 会計報告・活動組織図

1. 平成29年度収支計算書(決算)
2. 平成30年度予算
3. 平成29年度監査報告書
4. 平成30年度活動組織図

I. 支部長挨拶

本日、平成 30 年度年次大会開催に当たり多くの会員各位に出席いただきお礼申し上げます。千葉県支部は、平成 24 年に設置されてから 7 年目を迎えました。会員の皆様、賛助会員の皆様並びに役員各位にご支援を賜り、活動を進めることが出来たことを深謝します。本日は、平成 29 年度の活動報告と、平成 30 年度に向けた活動計画についてご説明し、ご意見を賜りたく存じます。

ここで、昨年、支部長の大役に就いてから感じましたことを、三点述べてみたいと思います。

一つは、活動の輪が拡大していることです。CPD の件数が 29 年度は最多の 13 件になりました。千葉市との間で「災害時における応急対策及び災害復興の協力に関する協定書」を締結しましたら、そのための体制づくりを有志でされている。理科教育支援は高校生を巻き込み、「我々のやる気を引き出してくれた」と、高校生自らが発表しています。活動が萎んでいくのではなく、着実に膨らんでいると感じました。

二つ目は支部として会員になっている千葉産業人クラブ、千葉商工会議所および東葛テクノプラザの活用です。支部長になってこれらの会合に参加しましたが、多種多様な業種の企業、組織が所属して活動しています。千葉県支部としてこの方々と何らかの協働ができないか、支部が払っている会費に見合う以上のメリットを引き出すべく模索していきたいと思います。

三つ目は支部財政状況の改善です。統括本部から支部への配賦を増やす話も松井前支部長の時にありましたが立ち消えになりました。自助努力で財政改善をしなければなりません。その基本は会員の拡大と考えています。ご協力をお願いします。なお、瞬間風速ですが、皆様のご協力で昨年度は黒字決算となりましたが、これを永続的に続けられるように努力したいと考えます。

平成 30 年度は、さらに多くの会員の皆様に参加いただき活動を進めたいと考えていますので、会員の皆様にはご協力とご支援をいただきたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日まで出席いただきました皆様の益々のご健勝を祈念しまして、年次大会の挨拶といたします。

支部長 川畑 真一

Ⅱ. 平成 29 年度活動報告・平成 30 年度活動計画

1. 活動報告

昨年度は平成 29 年度年次大会の活動計画にのっとり、各委員会並びに支援チームにおいて活動を着実に進めてきた。

平成 30 年 3 月末現在の支部会員は、正会員が 830 名、準会員が 228 名と合計 1058 名と昨年 4 月末の 1029 名に比べ微増した。支部会議については、役員会を 10 回開催し、委員会、支援チーム会議は 57 回開催した。

活動報告の概況は以下の通りである。

(1) 地域産業振興への支援

(a) 地域産業振興への支援として、産・学・官との協働・連携の活動を例年通り進めた。

(b) 技術士による企業向け技術相談を継続して 3 か所で実施した。

(c) 千葉県産業人クラブの協働展開は一部成果もあった。

(d) 千葉商工会議所との協働展開はまだ道筋が見えない状態である。

(2) 大学等教育機関との連携

(a) 大学等研究機関と交流し、講師派遣や大学からの企業連携依頼等の人的交流を進めている。

(b) 技術者にとっての憧れの資格として技術士の魅力について活動を通して伝えてきた。

(3) 県下の技術士会との交流

(a) 千葉県庁技術士会、船橋市役所技術士会、千葉工業大学技術士会等との 4 団体合同勉強会の CPD を 1 回開催した。

(4) CPD (継続的研鑽)

(a) CPD を 13 回開催し、会員は延べ 458 名の参加を、企業関係者及び市民は 112 名(千葉県庁技術士会、船橋市役所技術士会、千葉工業大学技術士会の技術士を含む)の参加を得た。

(b) 初めての試みとして会費 5000 円で「食べていける独立技術士を目指すための特別講演」を行った。

(c) 東葛地域や外房地域等全県下への展開として、都内墨田区のスカイツリーで CPD を 1 回開催した。

(5) 会員の活動機会の拡充

(a) 支援チームや活動グループに委員会委員として約 50 名の会員の参加を得て活動をすすめた。

(6) 収入増・支出削減による、支部財政の黒字化

(a) 県支部会員の拡大: 微増で大きな変化はなかった。

(b) CPD 行事値上げ、役員会の交通費不支給などにより昨年度は見かけ上黒字決算に初めてなった。

(7) 地方自治体との連携

(a) 昨年の千葉市との「防災支援協定」締結により、県支部の体制整備と支援仕組み作りに努力中で、会員の参加をお願いする。

(b) 自治体が催す市民活動フェア等に参加し、技術士会が行う活動を科学技術フェアでのモノづくり体験や防災・減災に関する活動で、幟を立て PR してきた。会員の参加をお願いする。

2. 活動方針

平成30年度は昨年度に継続して基本理念の達成に向けた行動指針の具体化活動を展開し、地域社会の発展と、技術士の知名度向上および会員拡大を図る。

(1) 地域産業振興への支援

- (a) 地域産業振興支援として、産・学・官との協働・連携を進める。
- (b) 技術士による企業向け技術相談を継続実施する。
- (c) 総武沿線のみならず東葛・外房地域等全県下への展開に努める。
- (d) 支部として会費を払っている千葉産業人クラブ、千葉商工会議所および東葛テクノプラザの活用

(2) 大学等教育機関との連携

- (a) JABEE関連について学生に向けた技術士の広報活動を進める。
- (b) 大学等研究機関と交流し、講師派遣や大学からの企業連携依頼等の人的交流に努める。
- (c) 技術者にとっての憧れの資格として技術士の魅力を伝える。

(3) 県下の技術士会との交流

- (a) 千葉県庁技術士会、船橋市役所技術士会、千葉工業大学技術士会等との合同勉強会を開催する。

(4) CPD(継続的研鑽)

- (a) 技術者倫理の啓発に努め、技術士の資質向上のため講演会や見学会などの研修会を開催し、会員の他、企業関係者及び市民の参加を増やす。

(5) 会員の活動機会の拡充

- (a) 支援チームや活動グループによる会員の活動参加機会拡充・拡大に努める。
- (b) 企業内技術士の活動の場を拡大する。

(6) 収入増および支出削減に配慮し、支部財政の健全化努力

- (a) 県支部会員の拡大をあらゆる場面で図る。

(7) 地方自治体との連携

- (a) 千葉市との「防災支援協定」に基づく体制整備と支援仕組み作りの推進。
- (b) 自治体が催す市民活動フェア等に参加し、技術士会が行う活動をPRする。(例えば、科学技術フェアでのモノづくり体験や防災・減災に関する活動等)

(8) きぼーるの中央区役所化に伴う活動拠点の探索。

2. 委員会・チーム 活動報告・活動計画

総務委員会(平成29年度報告)

委員会を3回開催し、以下の項目につき協議・確認・実施した。

1. 事務所管理は当番制で行っている。当番に協力いただいている幹事並びに会員は25名である。
2. 年次大会は、7月17日(月)「ホテルプラザ菜の花」において支部会員45名の出席を得て開催した。
3. 本部との連携は、報告・連絡・協議などを適切に行っている。
4. 財務・会計は、適切に出納管理を行い、本部へ2ヶ月毎に報告している。本部での集計結果を支部役員会で適時報告し、透明性を確保している。
なお、会計収支については、昨年度は一時的に赤字となったが、厳しい財務状態が続いている。

総務委員会(平成30年度計画)

- (1) 事務局整備
 - ・事務所管理は、会員による当番制において事務所を維持する。
 - ・年次大会及びCPD等委員会活動の支援を行う。
 - ・本部との報告・連絡・協議を行う。
- (2) 財務・会計
 - ・収入の確保を確実にする。
 - ・予算の管理と適切な出納を行う。
- (3) 会員、協賛団体
 - ・会員及び協賛団体の拡大に努める。
- (4) 会規、会議、名簿整備
 - ・規則類の整備を進める。
 - ・支部役員会等会議の議事録を整備する。

協賛団体

株式会社 ちばとち
特定非営利活動法人 サポート技術士センター
有限会社 ケイエムアイエスオー
一般財団法人 千葉県環境財団
株式会社 市川環境アセス
プラスチック・ジャパン 株式会社
特定非営利活動法人 建設技術監査センター
(敬称略)

総務委員会(平成29年度報告)

1. 規則や細則類の整備に伴う支部規定等について見直し、整備を図った。
 - ①千葉県支部旅費交通費支給規則(見直し)
 - ②千葉県支部業務紹介に関する要領
 - ③千葉県支部協賛団体に関する手引き
2. 支部役員会の開催案内通知、役員会審議資料の準備、役員会議事録の整理を行った。
3. CPD等他の委員会並びに活動推進各チームとの連携を図った。
4. 会員数は1058、賛助団体数は7となった。更に拡大を図っていきたい。

総務委員会(平成30年度計画)

- (5) 総務委員会の体制の見直し・増強・若返り
- (6) 規則・手引き類の見直し
 - CPD講演会に関する規則
 - 事務所利用に関する規則
 - その他
- (7) 協賛団体の特典の実行
- (8) (最重要) 財政健全化
 - *本部からの地域活動費が増額(IPEJ年会費×5% → 6~7%)されることはなかったが、
.....

財政健全化策(案)

(収入増)

- ・IPEJ本部に地域組織活動費の増額の要求継続
- ・CPD参加費の値上げ(1000円→1500円、実施済)
- ・地域組織活動補助費の最大限の獲得(落穂拾い)
- ・協賛金収入の増加(協賛団体の増加)
- ・事務所の有効活用による収入の確保

(支出減)

- ・交通費の支給範囲を狭める
- ・事務所経費の削減案の検討

企画委員会(平成29年度報告)

企画委員会は、29年度中に**委員会を12回開催**し、協議を重ねながら以下を推進・実行した。

1. CPD研修会、講演会、見学会の実施。

- ① 平成28年度は、別表に示す通り、**13回**実施した。
- ② 参加者累計総数は**570名**(会員**458**、会員外**112**)であった。
- ③ 主なカテゴリーは、モノづくり研修会、合格者祝賀会講演会、CPD見学会、年次大会特別講演会、防災講演会、新春講演会、合同勉強会、独立開業研修会、支援事例などであった。
- ④ 見学会も2回開催した。

2018年7月年次大会 企画委員会

1

企画委員会29年度報告

- ③ モノづくり力強化を狙い、昨年度の工場見学に続いて、トヨタ生産方式に関する研修会を2度にわたり実施した。
- ④ 当委員会だけでなく広く他の委員会、活動チームと協力、連携することにより、**外部組織との共催**の実現と新分野への拡大、CPD内容の充実を図った。

3. 企画委員会組織強化と活動の効率改善

当委員会メンバー、15名が効率よく活動を進める施策として以下を行った。

- ① **CPD推進手順**を整備し、準備と運営の手順を明確にした。
- ② CPD毎に**担当を割り当て**確実に実行できるようにした。
- ③ 講演会参加費を1500円へ変更した。

2018年7月年次大会 企画委員会

3

企画委員会30年度計画

- ③ 防災チームと連携した防災講演会の実施
 - ④ **新規テーマ**による会員の**知見拡大**を狙った講演会。
 - ⑤ 会員技術士による**企業支援事例**等の発表
 - ⑥ 科学技術の**研究開発関連講演会**
 - ⑦ **開業技術士の経験ノウハウ**等
 - ⑧ 会員の**身近な能力向上に寄与する**講演会
 - ⑨ 環境関係講演会
 - ⑩ 見学会など
- 4) CPD講演会の主な開催場所として活用してきた「きぼーる」多目的室の閉鎖に伴い、**新規会場**および**交流会**の開催方法について、新たな方法を模索していく。

2018年7月年次大会 企画委員会

5

2. 交流の拡大と組織強化。

- ① 県支部の活動は、地域に密着した**会員相互及び産学官などの交流拡大**が望まれる。その点では、**県庁技術士会との合同勉強会**は、長きに亘って定着し高く評価できる。この他、**船橋市役所技術士会、千葉工大技術士会**も含め、交流を継続した。
- ② 大学との交流では、千葉工業大学東京スカイツリーキャンパスの見学とAI、ロボット技術の動向に付ご講演頂いた。**講演会講師の依頼、大学からの技術士講師の依頼**などを通じて交流から連携への兆しが見えてきた。

2018年7月年次大会 企画委員会

2

企画委員会(平成30年度活動計画)

平成30年度は以下を計画し、推進する。

1. CPD研修会、講演会、見学会の実施。

CPD研修会の計画的な実施、内容充実に努め、技術士個々の継続的研鑽を引き続き支援するため、以下の事項に注力する。

- 1) CPDは講演会と会員技術士の事例、ノウハウ発表及び見学会等を柱とする。
- 2) 会員への同報メール、ホームページを活用し、会員のCPDニーズに対応し、参加者増に繋げ、内容の充実を目指す。
- 3) 重点的なカテゴリーを決めて実施し、充実したCPDとする。
 - ① 定例的CPD、年次大会特別講演、新合格者祝賀講演会。
 - ② **県庁技術士会等との合同研修会**

2018年7月年次大会 企画委員会

4

企画委員会30年度計画

2. 交流・連携の拡大と仕組みづくり及び組織強化

外部団体との共催又は協賛の機会を増やすことを検討したい。交流の拡大と仕組みづくりを目指し、「**交流から連携**」へのキーワードのもとに大学・企業・自治体等との関係について、関連委員会、チーム等と協力した仕組みづくりを継続したい。**外部のイベントにも積極的に参加し**、必要な情報収集及び課題を整理して、関連する委員会及びチームと協力連携して実現に向けての仕組みづくりを計画的に進めていきたい。

また、CPD開催時に県支部の在り方等、**会員相互の意見交換**を通じて親交を深めて行きたい。以上

2018年7月年次大会 企画委員会

6

平成 29 年度 C P D 実績

No	実施日時	主テーマ 開催場所	研 修 内 容	参加数
第 46 回	29 年 4 月 15.日(土) 14～17 時	CPD モノづくり セミナー(きぼ一 る会議室 1)	「誰でもできる”トヨタ方式での無駄のとり方”—”動き”と”働 き”のちがいは—」太田伸一郎氏 (アクティブビジネス代表取 締役) 講演終了後、相談会	45 名 (内 8 名 企業他)
第 47 回	29 年 5 月 20 日(土) 15 時～19 時	新合格者祝 賀会(きぼ一 る多目的室)	第一次・二次合格者祝賀講演会 主テーマ「技術者倫理」 1「日本技術士会の技術者倫理への取り組み」 山本陽一氏(化学・衛生工学・総合) 2「建設コンサルタントの技術者倫理 —シニア世代の人材 活用—」河北慶介氏(建設・総合) 3「ISO9001 品質保証の体制と企業倫理」 志澤達司氏(経営工学) 4「大学における技術者倫理教育の実践」 小波盛佳氏(機械)	52 名 (内 17 名 新合格 者) 大柳、竹田
第 48 回	29 年 6 月 10 日(土) 14 時～16 時	CPD モノづく りセミナー(きぼ 一る多目的室)	「トヨタ方式の基本」太田 伸一郎 氏 アクティブビジネス 代表取締役社長 (終了後 交流会)	45 名 (内 3 名 企業) 熊田、志澤
第 49 回	29 年 6 月 13～14 日	CPD 見学会	JR 東日本 信濃川発電所見学ほか山古志村見学 (技術教育支援チームが企画した)	8 名
第 50 回	29 年 7 月 17 日 (月・海の日)	年次大会 CPD 特別講 演会(ホテルフ ラザ菜の花)	「”地震予知は難しい!?”—常識の壁は破れないか—」 講演者:信州大学特任教授 榎本祐嗣(エノモトユウジ)氏 29 年 7 月度から講演会費 1500 円	47 名 +招待 9 名 中野、竹田
第 51 回	29 年 8 月 5 日(土)	CPD 講演会 (きぼ一る多 目的室)	「IoT で激変する日本の中小企業ビジネスモデル」 講師:川村 智 氏 (日本技術士会 修習技術者支援委員 会 委員長、技術士(情報工学部門))	34 名 +企業 4 名 熊田、進藤
第 52 回	29 年 9 月 2 日(土)	CPD 防災講 演会(きぼ一 る多目的室)	講演 1.「復興庁の職員となって大熊町を支援して」 技術士としてやってきたこと、見てきたこと、考えたこと～ 北村昌文氏 前復興庁福島復興局復興支援員 講演 2.「震災 6 年目の福島県被災地の様子と復興の課 題」高木竜輔氏 いわき明星大学教養学部地域教養学 科准教授	52 名 大柳、志澤 (会員のみ)

No	実施日時	主テーマ 開催場所	研修内容	参加数
第53回	29年10月 14日(土) 14:00-17:30	CPD 科学技術講演会・見学会(千葉工業大学 東京スカイツリータウンキャンパス8F教室)	1. 講演「AI・ロボット技術の動向」先川原正浩氏(千葉工業大学未来ロボット技術研究センター室長)。 2映画、 3ロボット他展示室見学 企業案内 交流会なし (申し込み総数 78名 事前キャンセル 13名 当日欠席 14名)	51名 企業2名 河北、進藤
第54回	29年11月 14日(火) 18:00-20:00	CPD 合同勉強会(県庁本庁舎1階多目的ホール)	今回は千葉県庁が企画された以下2件の講演に県内4団体合同で参加します。 講演1「東京湾アクラライン開通20周年を迎えて」 講師:東京湾横断道路株式会社 保全部長 桑澤 庄次郎 氏 講演2「ITSと道路政策の最近の動向」 講師:(一財)国土技術研究センター道路政策グループ 主席研究員 谷口 宏 氏	全80名 支部12名 河北
第55回	29年12月 9日(土) 13:30-17:00	開業ノウハウ特別講演会(きぼーる多目的室)	「食べていける独立技術士を目指すための特別講座」 講演1「業務獲得のためのポジショニング・ブランディング」 講師:秋元 英郎 氏(秋元技術士事務所) 講演2「技術士事務所運営のためのIT武装」 講師:徳永 雅彦 氏(株)ナレッジシェア代表取締役) 会費:5000円+交流会1000円	40名 (内2名 スタッフ) 進藤、木村
第56回	30年1月 13日(土) 14:00-16:30 新年会 17:00-19:00	新春講演会(千葉商工会議所14階第二ホール) 新年会(旨いもん食堂かどや)	「南極大陸を科学する～南極で分かったこと、南極でしか出来ないこと～」 講師:白石 和行 氏(前国立極地研究所 所長) 講演後新年会予定 講演会費1,500円+新年会会費:3,000円	57名 (企業1名) 中野、向原
第57回	30年2月 4日(日) 10:00-12:00	防災講演会(志津コミュニティセンター)	「きたるべき災害に備えて」(ユーカリが丘地域協議会との共催)講師:秋田 義一 氏	15名 大柳
第58回	30年3月24日	支援事例報告(きぼーる多目的室)	(1) 技術士仲間からの紹介による業務拡大(滝沢) (2) 千葉県支部「技術相談」の対応事例(向原) (3) 千葉市科学フェスタ「審査員特別賞」を受賞(今住)	31名 志澤、仲野

広報委員会(平成29年度報告)

広報委員会体制

委員長 秋元英郎

委員会委員 徳永雅彦、竹田雅美、小林創、竹内利一

委員会は6回の会議を実施した。

平成29年度活動計画と結果(1)

[課題] 千葉県支部Webサイト, 同報メールの充実

[活動計画]

- ① 各委員会・チームへ強力な募集によりWeb, メール
の充実。
- ② 賛助会員を掲載し賛助会員のメリットとする。

[活動結果]

- ① 再告知メールを含めて1年間で42件のメール発信(各
チームから要請された外部イベントの告知を含む)した。
- ② 会報第7号(平成30年3月発行)で賛助会員2社紹介
した。
- ③ 千葉県支部HPに「千葉県支部について」、委員会・
チーム紹介を新規に作成した。また、古い文書を「資料
庫」に移動し、整理を行った。

2018/8/13

平成29年度活動計画と結果(2)

[課題] 会報の発行

[活動計画]

- ① 2回/年発行の推進。
- ② 賛助会員を掲載し賛助会員のメリットとする
- ③ 千葉県支部会員の投稿を検討する

[活動結果]

- ① 2回(第6号、第7号)を発行
- ② 第7号より賛助会員紹介の掲載を開始
- ③ 会報で記事募集による企画記事「2017年私の技
術士業務」4件、「アクティブ45+」を1件掲載

2018/8/13

平成29年度活動計画と結果(その他項目)

[活動計画/活動結果]

3) 千葉県支部のパンフレットの更新の検討/未実施。HPの内容充実を優先させ
た。

4) 会員拡大作戦

組織的に千葉県支部会員を増やす方案の検討と実行。

① 千葉県支部のPR推進/HPの充実化は図った。

② 部会、大学・企業内技術士会などの連携/各チームの活動を同報メール
で告知した。

③ CPD等イベントと連携した活動参加誘引/CPD技術士開業講座

④ 賛助会員拡大支援/広報委員会としては行動していない。

5) 会報、外部メディアへの会員の活動発信推進。/会報に限定して発信した。

6) 大学・高校生へのイベントを利用したPR

他委員会・チームとの連携/科学技術・理科支援チームの活動をHP、同報
メールで告知した。

7) 広報委員の募集/同報メール等による公募は実施せず。

2018/8/13

平成30年度の活動計画

[活動目標]

- (1) 千葉県支部HPの拡充
- (2) 同報メールの有効活用
- (3) 会員外への情報発信方法の開拓

[活動計画]

(1) HP

委員会・チーム紹介の充実化

(2) 同報メール

発信メールのアーカイブ化、同報メールリンクのクリック
数把握

(3) 対外発信

千葉県支部紹介ポスターの検討、支部HP以外のメディア
の探索(facebookページの活用等)

2018/8/13

活動推進委員会(平成29年度報告)

「情報収集」

当委員会は、独自の活動は行っていません。
当委員会の下には下記の6つのチームがあり各チームは独立して各々の活動を行っています。

- ①産官学連携チーム
- ②企業支援チーム
- ③技術相談チーム
- ④防災支援チーム
- ⑤科学技術・理科支援チーム
- ⑥技術者教育支援チーム

詳細については、それぞれのチームから活動内容を報告します。

産業人クラブ、ちばしんきんコラボ産学官などの会合に活動推進委員会関係チーム、支部長、他委員会と連携し、出席。情報収集に努めています。

2018年7月年次大会活動推進委員会

2018年7月年次大会活動推進委員会

産学官連携チーム(平成29年度報告)

産学官連携チームの活動強化と技術士の知名度向上および技術士の活動推進のために、「産・学・官との交流・連携を強めて地域社会の発展に貢献する」ように活動を実施した。

- 1 産学官連携チーム会議：
原則月1回、第三土曜日に年10回開催した。
- 2 産学官連携チーム会員：
平成29年4月に活動メンバー再編し、8名により活動開始、本年度4名の会員増加し現在12名で活動中。
- 3 産学官連携チームカタログ作成：
昨年度カタログ作成し事務所に設置済、またホームページに掲載済。
- 4 産学官連携チーム紹介を千葉県支部ホームページに記載した

8 産学官関連セミナー：

8.1 産学官関連セミナーの案内
技術士会県支部の同報メールにより「ちば新産業創生ネットワークセミナー」(千葉県産業振興センター)や「新産業創生プロデュース活動」(千葉大学)を全部で5件案内

8.2 産学官関連セミナーへの出席

千葉工大技術士会、県庁/船橋市/技術士会千葉県支部3者合同勉強会、千葉大学の講演会を始め、全部で10の産学官関連の講演会に出席した。

9. 企業/大学との共同研究

9.1 千葉大学 服部教授とWNI気象文化創造センターとの共同研究に参加。

5 産業界へのアプローチ：

- 5.1 産業人クラブ事務局訪問：平成29年5月9日
- 5.2 コラボ産学官参加：平成29年5月23日
- 5.3 産業人クラブ総会、講演会参加：平成29年6月21日
- 5.4 産業人クラブ2017産学官シンポジウム：平成29年10月16日
- 5.5 第16回ベンチャーカップCHIBA参加：平成29年11月29日
- 6 大学との関係：
 - 6.1 千葉工大/技術士会 講演会参加：平成29年7月8日
 - 6.2 千葉工大 工学部 機械工学科訪問：平成29年12月14日
- 7 官庁との関係：
 - 7.1 県庁・船橋市・技術士会県支部3者合同勉強会：平成29年11月14日
 - 7.2 ベンチャープラザ船橋訪問：平成29年12月5日
 - 7.3 東葛テクノプラザ訪問：平成29年12月
 - 7.4 船橋市賀詞交換会参加：平成30年1月20日

産学官連携チーム(平成30年度計画)

- 1 産学官連携チーム会議
・月1回(第3土曜日、午前)の開催を実施する
- 2 会員増強：会員の増加
- 3 産業界との連携
・種々の機会を捉え、企業のニーズの把握を行う
・産業人クラブ、ちばしんきんコラボ産学官およびちばぎん総合研究所との連携の強化
- 4 大学産学官組織との連携強化と各大学のオープンフォーラム等への参加。
- 5 千葉県庁・千葉県産業振興センター・千葉市産業振興財団・ベンチャープラザ船橋との関係強化
- 6 産学官連携プロジェクトの実践：
・WNIと千葉大学の共同研究の継続
・企業・大学と新たな共同研究の実践

企業支援チーム報告

1. 企業支援チームのミッション

培った技術力を活用し中小企業支援活動を通して社会貢献する。

2. ミッション達成の方策

活動を活性化するため、中小企業と交流および対応可能な技術士の確保推進。

- (1) CPDイベントを通じた企業との交流強化
- (2) 経済環境の変化確認と外部人脈拡大
- (3) 千葉県支部内人材登録推進による対応技術陣の強化

他委員会・チームとの連携により、上記課題を達成する。

2018年7月年次大会企業支援チーム

I 2017年度活動計画

(1) CPDイベントを通じた企業との交流強化

企画委員会との連携により、友好企業*へ招待の案内発信。

(2) 経済環境の変化確認と外部人脈拡大

産学官連携チーム、技術相談チームとの連携により産業人クラブ、コラボ産学官等の会合に出席し、人脈拡大。

(3) 千葉県支部内人材登録推進による対応技術陣の強化

友好企業：従来から付き合いのあった企業、産業人クラブ等のアンケート回答企業

2018年7月年次大会企業支援チーム

II 2017年度活動結果

(1) 企業との交流強化

(2) 外部人脈拡大

- ✓ 技術相談チーム経由より技術支援対応。結果は2018年3月の支部CPDにて報告。
- ✓ 千葉市産業振興財団→技術相談チーム経由の案件で企業支援中。
- ✓ 金融機関より企業支援の依頼対応。

支援体制のルール設定(千葉県支部業務依頼に関する要領)
2017年4月1日より運用により、若干支部の会計改善に貢献

2018年7月年次大会企業支援チーム

(3) 人材登録推進による対応技術陣の強化

CPD行事の配付資料に人材名簿登録依頼文添付
(‘17年5月の新合格者祝賀会より実施)

2017年度は10名の新規登録

登録だけでなく、支部の行事にも参加してください。
良く知った方の紹介が、マッチングの確率が高くなります。

2018年7月年次大会企業支援チーム

III 2018年度の取組み

(1) CPDイベントを通じた企業との交流強化

2017年度の対応を続行すると共に、外部機関を活用したイベント案内の発信を検討(産学官連携チーム等と合同)

(2) 経済環境の変化確認と外部人脈拡大

2017年度の対応を続行

2018年7月年次大会企業支援チーム

IV お願い事項

○千葉県支部の人材登録をお願いします。

連絡先: 企業支援チームリーダー 志澤
t.shizawa@icntv.ne.jp
企業支援チームサブリーダー 中野
nobo.Nakano@gmail.com

- 千葉県産業振興センターの専門家登録、ミラサボの専門家登録
 - 千葉市産業振興財団の専門家登録をして下さい。
- 登録したらすぐ依頼があるとは限りませんが...

登録支援は、企業支援チームが行います

2018年7月年次大会企業支援チーム

以上

技術相談の概要

(1)技術相談の経緯

旧千葉県技術士会時代に開始した。

平成12年(2000年)：無料技術相談所開設
千葉県産業振興センター 東葛テクノプラザ

平成14年(2002年)：無料技術相談コーナー開設
千葉市産業振興財団

平成24年(2012年) 3月：日本技術士会千葉県支部 設立
新事務所へ移転

(2)技術相談の実施場所

- 外部の相談窓口にはチームの相談員が出向いている。
支部事務所では、事務所当番が必要により対応している。

Table with 4 columns: 相談窓口, 場所, 実施日, メンバー. Rows include 千葉県産業振興センター 東葛テクノプラザ, 千葉市産業振興財団, 日本技術士会 千葉県支部.

名称に、(公益社団法人)省略 * H. 30. 7より、千葉中央ツインビルに移転。

技術相談の概要
(3)技術相談現場

東葛テクノプラザ



千葉市産業振興財団



技術相談チーム(平成29年度報告)

1. 技術相談の実績

前年より件数が減少し、合計9件であった。

<相談件数推移>

Table showing consultation case trends from 2015 (H27) to 2017 (H29) across different consultation windows.

技術相談チーム(平成29年度報告)

2. 技術相談の認知度向上

(1)各企業へメールによる技術相談予定など情報発信について、
発信先企業の見直し中。

(2)対応可能分野の作成

- どのようなことができるか分かりやすい分類項目(案)を作成。
継続討議する。

3. 技術相談の体制整備

- チーム連絡会による情報共有化を3回実施した。

技術相談チーム(平成30年度計画)

1. 技術相談の継続

- 千葉市産業振興財団、東葛テクノプラザ、支部事務所。
協力者を確保しながら世代交代を進める。

2. 技術相談の認知度向上

今後取り組む具体的方策について協議していく。

(1)各企業への情報発信先の更新

- 発信先企業は、企業支援チームの接触企業中心にする。

(2)技術相談の活発化に向けた具体策

- 対応可能分野一覧表、相談実績リストの作成など。

3. 技術相談の体制整備

- チーム連絡会などによる情報共有化。

以上

防災支援チーム

1. 平成29年度活動報告

平成29年度(年初計画)

(1)基本方針

(2)実施活動報告

- 1) 千葉市との防災協定締結
2) 防災の日協賛「防災講演会」の実施
3) 防災に関する市民活動
①「ふなばし市民活動フェア2018」に参加
②団地自治会、防災活動組織への協力
4) 防災に関する勉強会

※以下この計画に対する結果を報告する

1. 平成29年度活動報告

防災支援

(1)基本方針

技術士の社会活動の一環として“外部へ向けた活動”

※ 技術士または技術士会是一般社会では知られていない。
技術系大企業では、“技術士”はそれほど珍しくもなく企業内技術士は存在している。企業社員の技術士として日常活動を行っており、(公社)日本技術士会またはその関連組織、技術士会千葉県支部としての活動までには手が廻らない。

私は、このことを念頭に置き、(公社)日本技術士会千葉県支部会員としての活動に主眼を置いてきた。当然、チームの方針として(防災支援チームリーダーを受諾した時から)第1の方針に掲げた。

これに関して、平成29年度では達成されたと報告できる。

(2) 実施活動報告 防災支援チーム

1) 千葉市との防災協定締結

- 平成26年度リーダを引き継いだ時の“既定方針”
平成29年5月19日締結になった。
同日、締結式
日刊建設新聞が取材1面に掲載してくれる。



(2) 実施活動報告② 防災支援チーム

2) 防災の日協賛「防災講演会」(第4回)

- 9月1日は関東大地震発生の日。これにちなんで9月1日は防災の日とされている。これに協賛し支部のCPD講演として「防災講演会」を開催している。
開催日：平成29年9月2日(土) きぼーる
テーマ：「福島を知る、ともに考える」
講師：①高木 竜輔氏 (いわき明星大 准教授)
②北村 昌文氏 (日本技術士会千葉県支部)
参加者：52名

(2) 実施活動報告③ 防災支援チーム

3) 防災に関する市民活動

②団地自治会、防災活動組織への協力

A佐倉市ユーカリが丘地区連絡協議会

「第10回防災フォーラム2018」

- 開催日：平成30年2月4日(日)
- 会場：佐倉市ユーカリが丘コミュニティセンター大ホール
- 講師：秋田 義一氏 「来るべき災害に備える」
- 参加者：一般210名 (技術士CPD20名)
- 共同主催：千葉県支部と地区協議会
- ※千葉県支部防災支援チームに“防災講演会”の講師依頼、内容高さから大好評

(2) 実施活動報告④ 防災支援チーム

3) 防災に関する市民活動

②団地自治会、防災活動組織への協力“防災講演”5回実施

- 開催①：平成29年4月23日(日)
対象：コスモ津田沼 (船橋市)
- 開催②：平成29年6月17日(土)
対象：アイシティ鎌ヶ谷 (鎌ヶ谷市)
- 開催③：平成29年10月15日(土)
対象：エストリオには野 (印西市)
- 開催④：平成29年10月21日(土)
対象：コスモ鎌ヶ谷ガーデンズスクエア (鎌ヶ谷市)
- 開催⑤：平成30年2月25日(土)
対象：コスモ鎌ヶ谷 (鎌ヶ谷市)
- 演題：「防災(災害)情報をいかに生かすか」
- 講師：秋田義一氏&江藤(防災支援チームメンバ)

(2) 実施活動報告⑤ 2018/8/13 防災支援チーム

4) 防災に関する勉強会

- 千葉市との「防災支援協定」の責任体制として
防災に関する勉強会を実施中
- 教材：千葉市地域防災計画 平成27年3月修正 千葉市防災会議
- 開催日：毎月1回(防災チーム定例会日)
平成29年10月より6回開催(平成30年度も継続中)

(2) 実施活動報告⑤ 2018/8/13 防災支援チーム

5) 外部団体による講演会参加

国際コミュニケーション・フォーラム

「ICT×AI×防災・減災」

- 日時：2017年11月18日(土) 15:00~18:00
- 会場：早稲田大学早稲田キャンパス 19号館7階711教室
- 主催：情報通信学会 共催 地区防災計画学会ほか
- パネリスト
江口清貴 LINE(株) 公共政策室長
高口鉄平 静岡大学情報学領域准教授
中嶋聖雄 早稲田大学アジア太平洋研究科准教授

「市民活動団体交流の集い」

- 日時：平成30年3月23日(金) 13:30~
- 会場：船橋市中央公民館
- 主催：船橋市役所 市民自治課

2. 平成30年度活動計画 防災支援チーム

(1) 基本方針：社会活動の一環 “外部へ向けた活動”

(2) 活動計画

1) 「千葉市との防災協定」協力

- 締結遂行責任態勢の整備
- 防災に関する勉強会

2) 防災の日協賛「防災講演会」の実施

- 千葉市の後援を得る(済)
- 千葉市防災活動とタイアップ

3) 防災に関する市民活動

- ①「ふなばし市民活動フェア2019」
- ②団地自治会、防災活動組織への協力

4) 防災に関する勉強会

- 自然災害について
- 災害時に対応すべきこと
- 平時の訓練・指導等について

登録メンバー募集

- ①災害発生時のボランティア
 - ②災害情報の広報等
 - ③インフラの被災状況調査
 - ④災害復旧時の設計照査
- 千葉市との防災協定協力会員

科学技術・理科支援チーム(1/8)

チームの役割

技術士の社会経験と科学技術知見をもって、主に青少年向けの科学・技術普及や理科教育支援の諸活動を担い、健全で活力と好奇心の溢れる社会の推進・発展に貢献する。

チームの活動目標

平成29年度から(1)を改訂

- (1) 各種科学教育イベントへの教材出展や講座支援の継続、そして充実
- (2) 高校生との協理理科教育活動の強化
- (3) 他の公共活動体との情報共有とコラボレーションの拡大

科学技術・理科支援チーム(2/8) 平成29年度報告

・チームの昨年度活動履歴は次のとおりです。■は、解説後掲

5月28日	チャレンジングSHIRASE2017第1回 海象水象 出展	この時期初
6月10日-11日	青少年のための科学の祭典(第23回 2017千葉大会) 出展	
7月30日	第7回千葉サイエンススクールフェスティバル 出展	初参加
10月7日-8日	千葉市科学フェスタ(第7回2017)メインイベント 出展	審査員特別賞受賞
11月18日	Chiba Cross School Science 2017 第5回前半 Festival(指導助言者)	
11月19日	チャレンジングSHIRASE2017第5回 気象 出展	この時期初
12月16日	Chiba Cross School Science 2017 第5回後半 Forum(指導助言者)	
2月22日	長生高校 Super Science Workshop 技術士講座 2単元	
2月24日	第8回社会活動事例発表会:今住氏と京業工業高校生I君 受賞成果報告	
3月24日	技術士向けCPD研修会 今住氏と京業工業高校生Kさん 受賞成果報告	

科学技術・理科支援チーム(3/8) 青少年のための科学の祭典

◎ 本件は、年度1回の各地方大会(2017年度60地区)及び全国大会@科学技術館からなる。
 ・直近2018第24回千葉大会(2018.6.9-10)@さぼーるでのチーム出展は以下の7作

No.	展示名称
①	無電源ラジオを作ろう! (支援:京業工業高校)
②	メロディーの小箱を作ろう (支援:市立千葉高校)
③	ライトレースカーで車の自動運転を体験しよう
④	アートな野菜を作ろう
⑤	昆虫の親子クイズ
⑥	TVで顔認識〜帽子をポン〜
⑦	楕円ビリヤード〜百発百中〜

科学技術・理科支援チーム(4/8) 無電源ラジオ制作1

◎ 「無電源ラジオを子供達が自ら制作し、自分の耳で電波スポットを探る」という教材展示。
 2016年発案。ハンダゴテ使用のインストラクターは、京業工業高校の協力を得る。



小学生向け

ハンダ付け制作
 WHD:
 130×60×90

主管 今住則之技術士 全国・電波スポット探検隊(URL下記)メンバー
<http://hotspot-tanken.club/>

科学技術・理科支援チーム(5/8) 無電源ラジオ製作2

◎ 出展イベントは前年度3件から4件に拡大し千葉市科学フェスタで審査員特別賞を受賞



備考)チャレンジングSHIRASE: 一般財団法人 WNI気象文化創造センターが主催する元南極観測船しらせ @船橋港棧橋を主会場とし、年5回自然科学情操をテーマに実施する総合行事 <http://shirase.info/challenging>

科学技術・理科支援チーム(6/8) その他の支援活動

◎ Chiba Cross School Science(市立千葉高校主管)の指導助言者の一翼を担う。

・千葉市内小・中・高校参加の児童生徒による科学研究の発表会。平成29年度は第5回。前半Festivalはポスター発表会、後半Forumは、前半の部の中・高生の優秀選抜のプレゼン発表会 http://www.ich.ed.jp/_userdata/H29ChibaCSSFestivalbosyuannai.pdf

Festival	Forum
11月18日	12月16日

・当チームは、毎年数名が、指導助言者の一翼として出席している。
 備考:写真は市立千葉高校HPの2016年CCSS広報資料より同校の許可を頂き転載。

◎ SSH長生高校の理数科サイエンス講座への講師参加

- ・平成28年度から、当チーム窓口による技術士の特別講義を試行実施中。29年度は、以下の2件。
 1) 2月22日 第2眼目 演題「時間をめぐる確からしさについて」 西田 宏 (情報工務部門)
 2) 同上 第3眼目 演題「安全!!でも 安心できない!!」 山下 六男 (建設部門)

科学技術・理科支援チーム(7/8) チーム陣容

☆ 以下は、この1年間の活動参加者で、有志の方々を含みます。(順不同)

チームリーダー	西田 宏	シニアリーダー	山下 六男
	飯沼 俊和		今住 則之 ※1
	大塚 憲司		江藤 政継
	川畑 真一		河北 慶介
	高野 典子		中島 正明 ※2
	春山 周夏		松井 啓一
	三井 宜夫		山村 央
	山室 幸之助 ※2		山本 陽一

※ 1: ラジオ製作会主管、全国・ご電波ホットスポット探検隊メンバーでもある。
 ※ 2: 協賛の「サイエンス夢クラブ(日立技術士会)」メンバーとして参加

30年度も新たな活動参加者を募集してます!

科学技術・理科支援チーム(8/8) 平成30年度計画

・チームの本年度活動実推(抄)は次のとおりです。

6月 3日	チャレンジングSHIRASE(2018年第2回イベント)	出展
6月 9日-10日	青少年のための科学の祭典(第24回 2018千葉大会)	出展
7月21日	長生高校 Super Science Workshop 技術士夏期特別講座	準新規
7月29日	第8回千葉サイエンススクールフェスティバル	出展(2年目)
10月6日-7日	千葉市科学フェスタ(第8回2018)メインイベント	出展
11月10日	Chiba Cross School Science 2018 第6回前半 Festival(指導助言者)	
11月	チャレンジングSHIRASE(2018年第5回イベント)	出展
12月	Chiba Cross School Science 2018 第6回後半 Forum(指導助言者)	

技術者教育支援チーム 2017活動実績

- 2014年支部公認の倫理教育研究会Grとして活動を開始
- 2015年度から、技術の教育技術を研鑽するチームとして活動

公益社団法人日本技術士会千葉県支部 年次大会発表

技術者教育支援チーム 活動実績(1/3)

(1)2017年度の技術教育研究会の活動実績(2017年4月～2018年3月)

4/8	小倉	知的財産の概要とその企業における教育
5/20	志澤 河北 山本小波	倫理特集記事の講演(県支部合格者歓迎会)
6/13,14	川畑	JR発電所 見学会(取水データ偽装問題)
7/22	小波	粉体物性のおもしろさと扱い方
9/30	小波	工学倫理とは(前編)鹿児島大授業分
10/21	志澤	ISO 9001:2015サービス関連企業への展開
12/23	小倉	知的財産の企業における教育

※本会は「技術者倫理教育研究会」の名称で、
各種講師応募の際の研究発表の実績とする。

技術者教育支援チーム 活動実績(2/3)

(2)チーム外での発表

5月20日 倫理特集記事の講演(県支部、合格者歓迎会)
県支部CPDで研究成果(2016掲載論文の内容)を発表

- ①日本技術士会の技術者倫理への取り組み 山本陽一
- ②建設コンサルタントの技術者倫理 河北慶介
- ③ISO9000品質保証の体制と倫理対応 志澤達司
- ④技術者倫理教育の大学での実践 小波盛佳

(3)執筆活動

当チームの小倉氏が論文執筆「企業における知的財産教育」
月刊専門誌「粉体技術」の知財特集で、2017年8月号に掲載
(特集担当委員小波)

技術者教育支援チーム 活動実績(3/3)

(4)見学会 (CPD活動として支部内から募集)

- 6/13,14日 計画担当:川畑
- ・JR東日本 信濃川発電所(取水データ偽装問題)
- ・旧山古志村(地震からの復興)

(5)大学への講師派遣

①経緯

2014年から、松井前支部長の知人である日本大学生産工学部機械工学科の高橋進教授から講師要請があり、継続案件であった。

②講師推薦

2017年度で前講師が辞めることになり、後任として応募した川畑が2018年度から実施することになった。

技術者教育支援チーム 2018 活動計画

公益社団法人日本技術士会千葉県支部 年次大会発表

技術者教育支援チーム 活動計画(1/3)

- 講師予定者、講師経験者が、講義内容を研究した成果を発表し、内容と教育の方法をディスカッションしながらブラッシュアップする。
- 大学等での技術者倫理他の教育の場を求める。執筆や対外講演の機会があれば応じる。

(1)教育研究活動

原則月1回の研究活動として技術者倫理教育研究会を継続する。
技術者倫理の他、諸専門、技術者向け講演の内容を含む。

2018年度の教育研究活動予定

4/7	小波	工学倫理とは(後編)鹿児島大授業分
5/5	川畑 (小波)	日大機械工学科での授業 疑似科学例 NMRパイプテクター
8/18	小波	粉体の分離・偏析の現象と防止法
	小波	疑似科学 or 他の担当のテーマ

☆原則として、第一月曜の13:00-15:00

技術者教育支援チーム 活動計画(2/3)

(2)大学講師等の派遣相談

支部長、企業支援チームなどチーム外の応援を得て、大学、高専等への働きかけを行う。

小波の千葉大機械、千葉大共通、鹿児島大の分は引継可能かも。

(3)技術論文の執筆

月刊専門誌「粉体技術」の特集「働き方改革の具体策」などが予定されており、機会があれば執筆していく。(小波は編集委員)

そのほかの雑誌類に積極的に投稿していく。

(4)疑似科学への対応 この項は最後に若干説明

疑似(ニセ)科学ビジネスが横行している。

これらに関して知識を獲得し、発信をしていきたい。

水素水、EM菌、花粉を水に変えるマスク、酵素パワー、
NMRパイプテクター(磁気水)、…………。

技術者教育支援チーム 活動計画(3/3)

(5)メンバー参加者募集

- ・若干名の増加は可能で、参加募集中
- ・原則として日本技術士会会員
- ・大学、一般技術者向けセミナー等の講師希望者、講師経験者
- ・余裕があるときは客員参加も可
- ・原則、第一土曜の13:00-15:00、於 県支部事務所
- ・講演資料データは、開催後しばらくDropboxに保存
チーム所属メンバーが閲覧可能
- ・会費 無料

(6)チームの現メンバー

◎小波盛佳(長) ○進藤秀明(副)、志澤達司、河北慶介、熊田成人、
山本陽一、川畑真一、和田保久、尾頭 誠、小倉秀文、浜崎 豊、
佐藤泰秀、田中和明

以下、資料外 疑似科学を何とかしよう

疑似科学はちまたにあふれている。

警鐘論説 「水からの伝言と科学立国」(2006年)
「化学と工業」誌
日本化学会 論説委員
安井至 国際連合大学副学長
(川畑支部長からも資料提供あり)

水に言葉を掛けると、変化する
非科学的な発表だが ← 信奉者が多い
これらの一般的なものはいくら科学者が対応

NMRパイプテクター = マンション・施設の水道設備の 「赤錆防止」装置

メーカーの主張する原理

水道管の外側に、磁石等を使った装置を取り付ける

→装置からマイクロ波が出て、管の内部の水流に当たる
水流の中で還元力をもつ電子が発生して、赤錆を黒錆に変える

電源不要なので数十年にわたってメンテナンスなしで効力

夢のように素晴らしい話!

NMRパイプテクター

特許取得

周囲から広い周波数範囲の「黒体放射」を吸収する
そのエネルギーを単一の周波数のマイクロ波に
変換して水道管に当てる
管内で、マイナス電子(トンデモワード)が発生して
酸化鉄を還元する

電源がなければ電波は発生しませんよー。
(時間がないので、説明は省略)

NMRパイプテクター

各地のマンションに業者がこの装置を売り込んでいる
(他にも類似製品の業者あり)
本格修繕なら数千万円の費用
→NMRパイプテクターなら400~500万円
やすいよ!
実は、元々、配管は結構もつので、実証はされにくい。

私もマンション理事長を長年務めていて、売り込みを受けた。
新規事業開発担当としても売り込みを受けた。
この関連の業者はかなり活動している。

疑似科学で消費者法の対象でない事例

消費者法は、「消費者」の利益保護のためにあるので、
団体や企業に対する被害は救済の対象外。

NMRパイプテクター



とてもシンプルな「装置」

NMRパイプテクター

結局、メーカーの説明は、科学的にまったくの大ウソ

電源がなければ電波は発生しない
マイクロ波は鉄管をまったく透過しない
水にマイクロ波が当たっても電子は出てこない
「NMR」とよく書いているが、まったくの誤用

何の意味もない金属の塊

NMRパイプテクター

疑似科学について

技術者として、よく指導しましょう。
今後理解を深めて、技術士会として発信できれば。

以上です。

Ⅲ. 会計報告・活動組織図

1. 平成 29 年度 収支計算書（決算）
2. 平成 30 年度 予算
3. 平成 29 年度 監査報告書
4. 平成 30 年度 活動組織図

収支計算書

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

統合会計（地域組織）
一般会計

千葉県支部
(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
事業収入	[680,000]	[762,090]	[△ 82,090]
自主事業収入	(680,000)	(762,090)	(△ 82,090)
参加費収入	680,000	756,000	△ 76,000
外部依頼管理収入	0	6,090	△ 6,090
地域組織収入	[1,805,000]	[1,864,443]	[△ 59,443]
地域組織活動費収入	917,000	920,840	△ 3,840
地域組織活動補助費収入	(888,000)	(943,603)	(△ 55,603)
講演会・見学会開催補助費収入	690,000	690,000	0
その他補助費	198,000	253,603	△ 55,603
雑収入	[130,000]	[191,065]	[△ 61,065]
雑収入	10,000	51,065	△ 41,065
協賛金収入	120,000	140,000	△ 20,000
事業活動収入計	2,615,000	2,817,598	△ 202,598
2. 事業活動支出			
事業費支出	[2,539,000]	[2,342,885]	[196,115]
事業促進費	(200,000)	(387,244)	(△ 187,244)
対外活動促進費	200,000	387,244	△ 187,244
事業広報費	(60,000)	(0)	(60,000)
会誌印刷費	30,000	0	30,000
その他の広報活動費	30,000	0	30,000
普及啓発費	(74,000)	(74,000)	(0)
関係団体会費	74,000	74,000	0
研鑽費	(680,000)	(719,847)	(△ 39,847)
講演会・見学会開催費	680,000	719,847	△ 39,847
業務推進費	(1,525,000)	(1,161,794)	(363,206)
会議費	30,000	19,280	10,720
旅費交通費	450,000	219,428	230,572
通信運搬費	110,000	101,397	8,603
消耗品費	100,000	24,142	75,858
印刷製本費	15,000	13,241	1,759
各種会合費	10,000	25,600	△ 15,600
光熱水料費	30,000	26,650	3,350
事務所賃借料	720,000	714,096	5,904
雑費その他	60,000	17,960	42,040
事業活動支出計	2,539,000	2,342,885	196,115
事業活動収支差額	76,000	474,713	△ 398,713
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	76,000	474,713	△ 398,713
前期繰越収支差額	△ 66,000	△ 446,884	380,884
次期繰越収支差額	10,000	27,829	△ 17,829

単位:千円

	科 目	H29年度 予算	H29年度 決算	H30年度 予算	補足説明
1	I 事業活動収支の部				
2	1 事業活動収入の部				
3	(3) 事業収入	[680]	[762]	[675]	
4	① 広告料収入	0	0	0	
5	② 参加費収入	680	756	675	CPD参加費 (@1500×450人)
6	③ 各種資料等頒布収入	0	0	0	
7	④ 外部依頼管理収入	0	6	0	外部依頼管理手数料
8	(4) 雑収入	[130]	[191]	[200]	
9	① 受取利息収入	0	0	0	受取利息(100円未満)
10	③ 雑収入	10	51	60	事務所分担金=60000とする。
11	④ 協賛金収入	120	140	140	協賛金(7団体)
12	⑤ 寄付金収入	0	0	0	
13	(5) 地域組織活動費収入	[917]	[921]	[921]	本部より、会費の5%相当分
14	(6) 地域組織活動補助費収入	[888]	[944]	[1,105]	
15	① 講演会・見学会開催補助費収入	690	690	700	CPD開催費用補助
16	⑥ その他補助費収入	198	254	405	対外活動促進費補助
17	事業活動収入計 (A)	[2,615]	[2,818]	[2,901]	
18	2 事業活動支出の部				
19	(1) 事業費	[2,539]	[2,343]	[2,899]	
20	① 事業促進費	(200)	(387)	(520)	
24	対外活動促進費	200	387	520	科学展示費用、防災支援など
20	③ 事業広報費	(60)	(0)	(60)	
21	会誌印刷費	30	0	30	機関誌発行費
22	会誌郵送費	0	0	0	(月刊技術士に同封)
23	インターネット運用費	0	0	0	
25	その他の広報活動費	30	0	30	パンフレット類
26	④ 普及啓発費	(74)	(74)	(74)	
27	関係団体会費	74	74	74	千葉商工会議所、東葛テクノ会、千葉産業人クラブ
28	⑥ 研 鑽 費	(680)	(720)	(700)	
29	講演会・見学会開催費	680	720	700	CPD講演会・見学会費>「15」
30	⑫ 各種資料等作成費	0	0	0	
31	⑰ 業務推進費	(1,525)	(1,162)	(1,545)	
32	法定福利費	0	0	0	
33	賃 金	0	0	0	
34	会 議 費	30	19	50	きぼーるが使えなくなる
35	旅費交通費	450	220	450	交通費
36	通信運搬費	110	101	110	通信費
37	消耗品費	100	24	100	事務用品費
38	印刷製本費	15	13	15	印刷製本費
39	図 書 費	0	0	0	
40	各種会合費	10	26	10	
41	光熱水料費	30	27	30	電気代、水道代
42	事務所賃借料	720	714	720	契約更新料が必要。
43	賃 借 料	0	0	0	
44	地域委員会活動費	0	0	0	
45	雑費その他	60	18	60	振込手数料など
46	事業活動支出計 (B)	[2,539]	[2,343]	[2,899]	
47	事業活動収支差額 (A) - (B)	[76]	[475]	[2]	
48					
49	前期繰越収支差額	[△ 66]	[△ 66]	[△ 446]	
50	次期繰越収支差額	[10]	[409]	[△ 444]	

監査報告書

平成30年6月18日

公益社団法人 日本技術士会 千葉県支部

支部長 川畑真一 様

会計幹事 松井 隆 
会計幹事 保坂俊雄 

私たち会計幹事は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの事業年度執行を監査しました。監査の方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1. 監査の方法

会計幹事2名は、年10回の役員会に出席して意思疎通を図り、支部長、委員長、チームリーダー及び各幹事による事業実施状況の把握に努めました。

さらに会計帳簿については、平成30年6月18日に、貸借対照表、収支計算書、財産目録、現金出納帳、キャッシュフロー図及び預金通帳等を調査しました。

2. 監査結果

- 1) 事業実施（活動の実施）状況は、平成29年年次大会報告書に示す年度計画達成に向けて、着実に実施していると確認しました。
- 2) 会計処理については、貸借対照表、収支計算書、財産目録、現金出納帳、入出金伝票、キャッシュフロー図及び預金通帳等を確認し、適切に処理していると判断しました。
- 3) 平成28年度収支赤字について、次の対策により平成29年度は黒字計上となりました。
 - ① CPD 講演会参加費の増額
 - ② 役員会の交通費支給取り止め等交通費の低減策

以上

平成30年度 活動組織図



委員会・チームの構成員には、委員会委員として会員から広く募り、活動を推進していくこととしており、会員各位の奮っての参画をお願いする。

新チームの設置は技術的要請と会員の参画に応じて柔軟に取り組む。

基本理念

千葉県支部は、多様な技術士の技術力とチーム力で、産・学・官との交流・連携を強めて、地域社会の発展に貢献する。

行動指針

1. 技術士倫理の啓発に努め、継続研鑽(CPD)により技術士の資質向上に努める。
2. 産・学・官との交流を深め、連携を積極的に行い、技術士の活用を促進する。
3. 企業支援、科学技術・理科教育支援、コミュニティとの協働を活発化する。
4. 技術士の知名度向上および会員拡大を図る。